



令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

上下水道局

事務事業名	水道施設の改築更新・地震対策		
予 算 額	4,540,000 千円 (債務負担行為設定あり)	新規・充実・継続の別	継続
担 当 課	水道部 管理課(672－7743)		
[事業実施に至る経過・背景など]			
浄水場をはじめとする水道施設は、これまで長きにわたり京都市の水道事業を支えてきたが、順次、耐用年数を迎え、老朽化が進んでいる。それにより、施設の停止や給水への支障が生じることのないよう、維持管理を適切に行いながら、施設の改築更新を引き続き実施する必要がある。			
[事業概要]			
浄水場の基幹施設（配水池等）について、引き続き改築更新・地震対策を進める。令和8年度は、新山科浄水場導水トンネル築造工事や蹴上浄水場第1・第2配電室電気設備更新工事や蹴上浄水場中央監視制御設備更新工事を継続するとともに、新山科浄水場高区1・3号配水池耐震化工事に着手する。			
(主な事業内容)			
<ul style="list-style-type: none">○ 新山科浄水場導水トンネル築造<ul style="list-style-type: none">・工事期間（予定） 平成29年度～令和14年度○ 蹴上浄水場第1・第2配電室電気設備更新<ul style="list-style-type: none">・工事期間（予定） 令和7年度～令和8年度○ 蹴上浄水場中央監視制御設備更新<ul style="list-style-type: none">・工事期間（予定） 令和7年度～令和10年度○ 新山科浄水場：高区1・3号配水池耐震化<ul style="list-style-type: none">・工事期間（予定） 令和8年度～令和10年度			
			
新山科浄水場導水トンネル築造工事 (トンネル掘進の様子)			
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]			


令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

上下水道局

事務事業名	水道管路の改築更新・地震対策		
予 算 額	14,260,000 千円 (債務負担行為設定あり)	新規・充実・継続の別	継続
担 当 課	水道部 管理課(672－7743)		
[事業実施に至る経過・背景など]			
本市には、約4,200kmの水道管路（配水管）があり、ライフラインである水道水の供給を支えているが、事業拡張期（昭和40年代～50年代）に整備した管路が順次、耐用年数を迎え、老朽化が進んでいる。水道管路の老朽化は、市民生活や社会経済活動に深刻な影響を与える漏水や道路陥没などの原因となるため、水道管路の改築更新を継続的に実施する必要がある。			
[事業概要]			
耐震性に劣る初期ダクタイル鋳鉄管を老朽配水管と位置づけ、「京都市上下水道事業中期経営プラン（2023-2027）」の最終年度となる令和9年度に老朽配水管の解消率が74％となることを目指し、優先順位を考慮しながら更新を進めている。			
令和8年度は、老朽化した水道管路の更新を継続（約5.5km）し、更新時には、耐震性・耐久性に優れる管材料を使用することで耐震化を図ることで、老朽配水管の解消率は67.5％となる予定である。			
また、給水のバックアップ機能を強化するため、隣接する給水区域間をつなぐ連絡幹線配水管の布設を引き続き実施する。			
<div><div><div>(主な事業内容)</div><div>配水管の布設替え</div><div><div>・幹線配水管：布設替え 2.2km</div><div>・支線配水管：布設替え 30.7km</div><div>・補助配水管：布設替え 22.0km</div></div></div><div><div>配水管工事</div></div></div>			
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]			


令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

上下水道局

事務事業名	下水道管路の改築更新・地震対策		
予 算 額	9,685,000 千円 (債務負担行為設定あり)	新規・充実・継続の別	継続
担 当 課	下水道部 計画課 (672－7839)		
[事業実施に至る経過・背景など]			
<p>京都市には、約4,300kmの下水道管路があり、快適で衛生的な暮らしを支えている。良好な水環境を守る下水道を将来にわたって安心してお使いいただくため、老朽化した下水道管について更生工法や布設替えにより計画的に改築更新を進めるとともに、重要な管路の耐震化を進め、地震に強い下水道の整備を推進する必要がある。</p> <p>また、管路施設を補完するポンプ施設についても、適切な点検整備に基づき、計画的に改築更新を進める必要がある。</p>			
[事業概要]			
<p>老朽化した管路や重要な管路の中でも、特に破損等のリスクが高い旧規格の管路約989kmについて、計画的な調査を行い、更生工法や布設替えを実施することにより、優先度を踏まえた改築更新・耐震化を推進している。</p> <p>令和8年度は、約33kmの対策を行うことで、下水道管路改築・地震対策率は41.5%となる予定である。</p> <p>また、住吉ポンプ場監視制御設備工事を継続して実施するとともに、雨水ポンプ設備の更新工事に着手する。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 住吉ポンプ場監視制御設備工事<ul style="list-style-type: none">・工事期間 (予定) 令和6年度～令和8年度○ 住吉ポンプ場雨水ポンプ設備更新工事<ul style="list-style-type: none">・工事期間 (予定) 令和8年度～令和9年度			
			
下水道管路の更生工事			
[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]			


令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

上下水道局

事務事業名	下水処理施設の改築更新・地震対策		
予 算 額	5,443,000 千円 (債務負担行為設定あり)	新規・充実・継続の別	継続
担 当 課	下水道部 計画課 (672－7839)		
[事業実施に至る経過・背景など]			
水環境保全センターの主要な施設について、日常の点検整備に基づき、健全度に応じた改築更新を進めるとともに、揚水機能、ちんでん機能、消毒機能など地震時においても維持すべき重要な機能を有する施設については、改築更新に合わせて耐震化を進める必要がある。			
[事業概要]			
令和8年度は、鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築更新工事、沈砂池改築更新工事を継続して実施するとともに、第2東ポンプ場ポンプ設備の更新工事等に着手する。			
(主な事業概要)			
<ul style="list-style-type: none">○ 鳥羽水環境保全センター 汚泥焼却炉改築更新工事<ul style="list-style-type: none">・工事期間 (予定) 令和5年度～令和9年度○ 鳥羽水環境保全センター 沈砂池改築更新工事<ul style="list-style-type: none">・工事期間 (予定) 令和7年度～令和11年度○ 鳥羽水環境保全センター 第2東ポンプ場ポンプ設備改築更新工事<ul style="list-style-type: none">・工事期間 (予定) 令和8年度～令和9年度			
			
鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉			
[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]			

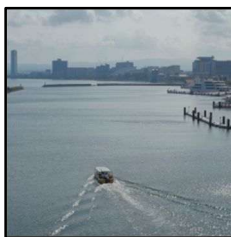

令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

上下水道局

事務事業名	浸水対策の推進		
予 算 額	4,087,000 千円 (債務負担行為設定あり)	新規・充実・継続の別	継続
担 当 課	下水道部 計画課 (672－7839)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>近年、台風に伴う大雨や、局地的大雨などが増加している。京都市では、これまで下水道の整備に併せて浸水対策を進めてきた結果、5年確率降雨（1時間あたり52ミリ）に対する雨水整備率は、全国トップクラスの92％となっている。</p> <p>また、10年確率降雨（1時間あたり62ミリ）に対応するため、雨水幹線等の整備を進めてきており、10年確率降雨に対する雨水整備率は、35.0％となっている。</p> <p>今後も市民の皆様の生命や財産を守るため、「雨に強いまちづくり」を推進し、大雨のときに雨水を取り込む雨水幹線等の整備を着実に進め、浸水被害の最小化を図っていく必要がある。</p>			
<p>[事業概要]</p> <p>令和8年度は、引き続き鳥羽第3導水きよの整備を着実に進める。また、雨水ますの増設などのきめ細やかな対応も行う。</p> <p>(主な事業概要)</p> <p>○鳥羽第3導水きよ（鳥羽処理区）</p> <ul style="list-style-type: none">・口径 4,700mm 延長 6,100m・工事期間（予定） 令和2年度～令和9年度			
			
鳥羽第3導水きよ			
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]			

令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

上下水道局

事務事業名	琵琶湖疏水の魅力発信(びわ湖疏水船、琵琶湖疏水記念館)		
予 算 額	72,745 千円	新規・充実・継続の別	継続
担 当 課	総務部 総務課(672－7709)		
[事業実施に至る経過・背景など]			
明治の竣工から現在まで、豊かな水の恵みで、京都市民の皆様のからしとまちの活動を支えている琵琶湖疏水は、令和2年に日本遺産に認定され、令和7年8月には、24施設が重要文化財に、うち5施設が国宝に指定された。文化財・産業遺産でありながら、現役のインフラ施設でもある琵琶湖疏水を、更なる未来に繋いでいくために、市民の皆様をはじめ、多くの方々に、琵琶湖疏水の役割や魅力に触れていただけるよう、魅力向上と情報発信に取り組んでいる。			
[事業概要]			
琵琶湖疏水施設の国宝・重要文化財の指定を踏まえ、国からの交付金も活用しながら、びわ湖疏水船事業（実施主体：琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会）を通じて、琵琶湖疏水沿線の更なる魅力向上を促進するほか、文化観光拠点である琵琶湖疏水記念館における企画展の開催などに取り組み、琵琶湖疏水の魅力向上・情報発信を図る。			
(主な事業内容)			
○ びわ湖疏水船の航路延伸便と連携した琵琶湖周遊観光事業の磨き上げ、インバウンド対応等の推進			
○ 周遊観光促進イベントの企画・試行実施			
○ 琵琶湖疏水施設を見学に来られた方の満足度向上のための、案内板等の設置等			
○ 琵琶湖疏水記念館での特別展の開催 など			
			
びわ湖疏水船事業		琵琶湖疏水記念館	
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]			
※ 国からの交付金及び寄付金等を財源として活用			
※ 日本遺産について			
地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定する制度。			